

ゴルフコンペ：幸運過ぎるのも・・・

2004年9月、町の商工会主催チャリティコンペ（大相模CC）に参加した時のことである。
総勢240人が、終日貸切りの3コースに分かれて、新ペリア方式でのコンペが行なわれた。中コースからスタートの自分は、前を気にしなくて済むラッキーなトップスタートの1組目であった。（第1の幸運）
4ホール目のニアピンホールでは、運よく1m手前にベタピンのバーディ。（第2の幸運） フラグを立てた位置がピン正面なので、後続の組がやりにくいだろうなとは思ったが、順調に午前46でラウンドして、午後はバカ当りの35のラウンドとなった。（第3の幸運）
朝一のトップスタートだったので、パーティまで少々待たされることになったが、表彰式が始まってみると、案の定、あのニアピンが最後まで残っていた。その上、新ペリア方式で第2位に入賞していたのである。（第4の幸運） 各コースの優勝賞品は“液晶テレビ”だったが、第2位には“自転車”が贈られた。その上、ニアピン賞までも戴くことに。ここまでが、この日のツキ過ぎた4つの幸運である。

ところが、この賞品の自転車の始末に、このあとエライ苦労をすることになる。
大した自転車ではないのに、車のトランクに納まらないし、はみ出したまま無理に走っては車に傷が付きそうだし、仕方なくフロントに車を置いていくことを告げて、賞品の自転車に乗って帰ることにした。

車がゴルフ場からどんどん出て行く中を、一人自転車で出て行くのは、入賞の喜びより場違いで恥ずかしいものである。
ゴルフ場から自宅まで15キロ位と見て、何とかなるだろうと走り出したが、実は自転車に乗るのは20代以来の久々で、殆ど乗ったことがない。

かなり山の上にある大相模CCからは、下り坂ばかりと思いきや、下っては昇りの結構きつい坂もあり、途中には薄暗くて長い三増トンネルまであり、自転車にはきついルートを、車で走ると緑豊かで快適なはずの道を、汗だくでフラフラとママチャリのような自転車を漕いだものである。
トンネルを抜けた長い下り坂では、歩道が一面雑草ぼうぼうの状態、ススキの塊を避けきれずにガードレールに接触し転倒してしまう。幸い、擦り傷程度で済んだが、その日の幸運をいっぺんに使い果たした気がした。
どうしてこんなものを賞品にしたのかと、主催者に恨み言の一つも言いたくなった。
自転車には少し傷が残ったが、すぐに義弟にプレゼントして喜んでもらえたが、自分には苦い幸運の思い出が残らない出来事であり、幸運すぎるとロクなことはないと身に染みた一日であった。



*** お願い： 賞品に“自転車”を贈る場合は、必ず“折りたたみ式”にしてください！！ ***

プライベートコンペも含め、今までかなりのコンペに参加して、飛び賞やら色々な賞品を貰っているはずだが、この自転車以外に殆ど記憶がない。大抵は記憶に残らない物が多かったと思うが、この自転車だけは今でも忘れられない懐かしい記憶である。記憶に残るのが第5の幸運だったのかも知れない。

追記：ハーゲンダッツのアイスクリーム券をごっそり貰ったのは何処のコンペだったろう。職場のみんなに配ったらとても喜ばれたことを思い出した。昇仙峡CCのニアピンコンテストだったと思うが、後日、副賞として送られてきたのにはビックリした記憶がある。

以上